ISSN 2186-747X

さいたま市文化財時報

榧（かや）りぽーと

第 92 号

令和5年度 埋蔵文化財の調査・展示紹介

『埋蔵文化財』とは、地中に「埋蔵」された「文化財」のことで、我々の祖先が造り出したものが地中に保存された、当時の生活を知るための重要な資料です。さいたま市内にも、旧石器時代から近世のものまで、「埋蔵文化財包蔵地」（埋蔵文化財の存在が知られている土地）が1,100か所以上確認されています。

埋蔵文化財は、地中から掘り出してしまうと、元に戻すことができないため、埋もれたままの状態で保存することが望ましいのですが、土木工事などで壊れてしまう場合には、記録として保存するための「発掘調査」を実施します。今年度2月までに市内で実施された発掘調査は、22件ありました。

また、さいたま市では、平成28年の10月から、岩槻区に所在する国指定史跡「真福寺貝塚」の整備に向けて、史跡内の内容を確認することを目的とした学術的な発掘調査を行っています。

今回は、これらの発掘調査のうち、令和5年度に実施された主な調査成果をご紹介します。

泥炭層から縄文時代の木材、漆塗りの土器などを検出

～国史跡 真福寺（しんぷくじ）貝塚の調査～　〈岩槻区〉

東武アーバンパークライン岩槻駅の南東約 1.6 ㎞、岩槻区城南3丁目に所在する遺跡です。昭和 50 年に国の史跡に指定されており、史跡整備に向けて内容確認調査を平成 28 年度から継続して行っています。

令和元年から4年度の4か年にわたる調査では、史跡西側の窪地から谷部にかけて、低地およびその付近の台地縁辺部の活動を明らかにするための調査を行いました。

今年度からは、真福寺貝塚の水辺の活動域にあたる谷部の泥炭層地点の調査を新たに実施しました。調査の結果、縄文時代晩期初頭から中葉にかけての木材を伴う泥炭層が堆積している様相を確認しました。出土した木材は時期により大きさに違いがありました。また、縄文時代以後の古墳時代から奈良時代ごろにも泥炭層の堆積があったことが出土した土師器によって明らかになりました。

縄文時代の泥炭層からは、木材や土器、石器のほか、台地上では朽ちてしまうクルミやトチノミなどの木の実、昆虫の翅（はね）も確認されました。そして、木胎（もくたい）漆器や漆塗りの土器といった漆製品も出土しています。

▲縄文晩期の泥炭層に堆積する木材

▲漆塗りの土器検出状況

縄文時代前期の大型住居跡 ～指扇向（さしおうぎむかい）遺跡の調査～ 〈西区〉

JR西大宮駅の南約１㎞、西区大字指扇に所在する遺跡です。この遺跡での発掘調査は今回で２回目になります。個人専用住宅の建設に先立ち、さいたま市教育委員会が令和５年３月から４月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代前期の竪穴住居跡１軒、縄文時代のピット72基のほか、縄文時代の土器や石器、装飾品とみられる玉類を検出しました。

今回の調査で確認できた前期の住居跡は、範囲にして全体の１/４程度ですが、その長軸方向の長さは７～８ｍに及ぶと考えられます。このような住居跡は、当該期における拠点的集落で認められることが多く、この集落の重要性を確認できました。

▲縄文時代前期の住居跡

縄文時代後期の集落 ～南１号（みなみ ごう）遺跡の調査～ 〈中央区〉

JR中浦和駅の北約800m、中央区大戸一丁目に所在する遺跡です。この遺跡での発掘調査は今回で３回目になります。個人専用住宅の建設に先立ち、さいたま市教育委員会が令和５年６月から７月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代の炉跡１基および土坑34基のほか、縄文時代の土器や石器などの遺構・遺物を検出しました。

今回の調査では、縄文時代前期から後期にかけての遺物包含層が、特に後期を中心として、２層に渡り漸移（ぜんい）的に堆積していることを確認しました。遺構もほとんどが後期に比定されるものであり、主な活動の時期は後期であったと考えられます。

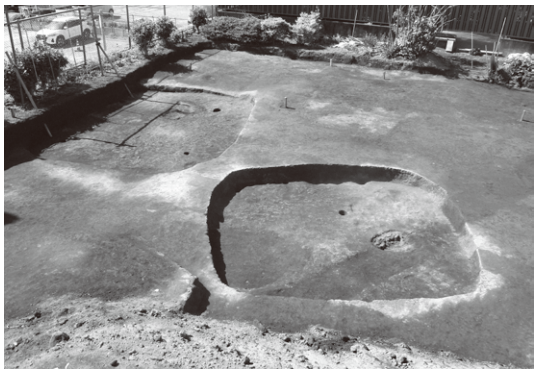
▲縄文時代後期を中心とする遺構群

弥生時代後期の住居跡 ～大間木宮前（おおまぎ みやまえ）遺跡の調査～ 〈緑区〉

JR東浦和駅から北に約80m、緑区東浦和一丁目に所在する遺跡です。この遺跡の発掘調査は今回で７回目になります。宅地造成に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和５年３月から４月にかけて実施しました。

調査の結果、弥生時代後期の住居跡３軒、縄文時代と弥生時代の土器等の遺構・遺物を検出しました。

検出された弥生時代の住居跡の内２軒は、距離が近く、一定期間にわたり居住活動が継続していたことが明らかになりました。また、縄文時代の土器も検出されたことから、調査区の周囲に縄文時代の遺構も展開していることが想定されます。



▲弥生時代後期の住居跡

古墳時代の焼失住居跡、祭祀関連遺物 ～白鍬宮腰遺跡の調査～ 〈桜区〉

▲古墳時代前期の焼失住居跡および遺物出土状況

JR与野本町駅から西に約1.8㎞、桜区大字白鍬に所在する遺跡です。この遺跡での発掘調査は今回で20回目になります。宅地分譲工事に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和５年４月から９月にかけて実施しました。

調査の結果、古墳時代前期の住居跡４軒、古墳の周溝１条、平安時代の住居跡２軒および縄文時代の土器、古墳時代前期の土器、管玉などの遺構・遺物を検出しました。古墳時代前期の住居跡は焼失住居で、炭化した屋根材とともに坩・器台などの祭祀関連遺物が多量に出土しました。また、本調査地点では自然堤防と台地の境界も検出しており、地形の堆積状況を考えるうえでも意義のある調査となりました。

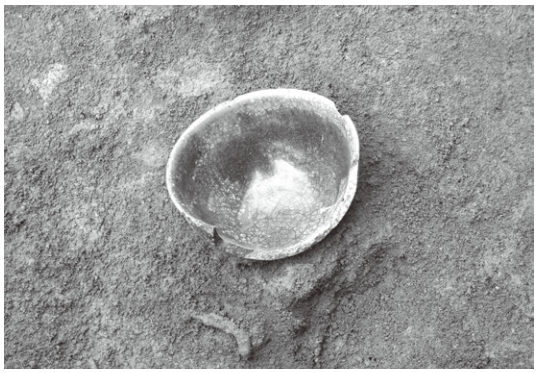
市内初の中世の井戸枠 ～大久保領家遺跡の調査～ 〈桜区〉

▲中世の井戸枠

JR南与野駅から西に約2.5㎞、桜区大字大久保領家に所在する遺跡です。この遺跡の発掘調査は今回で17回目になります。分譲住宅の建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和５年９月から12月にかけて実施しました。

調査の結果、市内で初めてとなる13～14世紀頃の木製の井戸枠を検出しました。また、井戸を設置するための直径約３ｍの堀方も確認されました。これらのことから、井戸が設置された当時の大規模な土木工事の痕跡や、木材の加工方法等、井戸枠作成技術の一端が明らかになりました。

中世の地下式土坑や銭貨、陶磁器 ～岩槻城跡の調査～ 〈岩槻区〉


▲土坑から出土した天目茶碗

東武アーバンパークライン岩槻駅の南東約1.6㎞、岩槻区太田二丁目に所在する遺跡です。今回の調査地点は、かつて勤番長屋、侍屋敷が所在していたとされる、遺跡の西側に位置しています。建物の建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和５年８月から11月にかけて実施しました。

調査の結果、中世の井戸跡や溝、地下式土坑、中世から近世にかけての掘立柱建物跡や柱穴、そして縄文時代の土器、中世～近世の銭貨、陶磁器などの遺構・遺物を検出しました。

旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉・室町・戦国	江戸	近現代

10000　200　BC　0　AD　200　400　600　800　1000　1200　1400　1600　1800　2000

埋蔵文化財の展示紹介

さいたま市では、埋蔵文化財の調査のほか、市民の皆様へ埋蔵文化財を紹介し、理解を深めていただくための活動も行っています。

令和5年9月から12月まで、市内の発掘調査の成果をいち早く紹介する「最新出土品展」を、さいたま市立博物館（大宮区）、コクーンシティ2（大宮区）、さいたま市中央図書館（浦和区）の各会場で開催しました。公共施設のほか商業施設で開催したことで、多くの方にご来訪いただきました。

▲最新出土品展（コクーンシティ２）

最新出土品展の開催直前の9月2日には「さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会」をさいたま市生涯学習総合センターで開催し、市内の発掘調査成果を各調査担当者が発表しました。参加された方には、令和4年度に実施された発掘調査や、国指定史跡・真福寺貝塚に関する説明などを熱心にお聞きいただきました。

お知らせ

●国指定特別天然記念物「田島ケ原サクラソウ自生地」の案内

田島ケ原サクラソウ自生地（桜区田島・桜草公園内）では、サクラソウが3月下旬ころから咲き始め、4月上旬に見ごろを迎えます。サクラソウの開花期に合わせ、ボランティアによる案内を毎日実施し、自生地の魅力を紹介しています。昨年5月には、田島ケ原サクラソウ自生地が「未来に残したい草原の里100選」に選定されました。春はサクラソウだけでなく、草原の多様な草花をご覧いただけます。

また、さいたま市のホームページではサクラソウの開花状況をお知らせしていますので、こちらもご活用ください。

※ボランティアによる案内は3月29日から4月14日の間の10時から15時まで実施。雨天・荒天中止。内容に変更がある場合は市ホームページでお知らせします。

サクラソウの開花状況はこちら ▶

▲サクラソウ

さいたま市文化財時報
埋りぼーと　第92号
令和６年３月25日

《編集・発行》
さいたま市教育委員会事務局 生涯学習部 文化財保護課
〒330-9588　さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
☎048-829-1723　FAX 048-829-1989
https://www.city.saitama.lg.jp/

この刊行物は1,200部作成し、１部あたりの印刷経費は44円です。